

豊島区ヤングケアラー実態調査結果(抜粋)

ヤングケアラーと言われる子どもたちの実態を把握し、今後の効果的な支援方法を検討すること、さらに、関係機関の意識調査を通してヤングケアラーの啓発を図るため、令和4年8月15日から9月15日まで、アンケート調査を実施した。

※下記内容のページ数は最終報告書のページ

1. 調査回答数について

(1) 子ども向けアンケート (5 ページ)

対象	対象数	回答数	回答率	国の回答率
区立小学校4年生～6年生	4,425人	2,089人	47.2%	6年生 39.8%
区立中学校1年生～3年生	2,711人	869人	32.1%	2年生 5.6%
豊島区在住高校生年齢の児童	4,493人	571人	12.7%	12.0%
総数	11,629人	3,529人	30.3%	12.2%

(2) 関係機関向けアンケート (6 ページ)

対象	対象数	回答数	回答率	国の回答率
要保護児童対策地域協議会 (要対協)の関係機関など (※)	388 機関	126 機関	32.5%	・小学校 74.2% ・自治体における 要対協の所管課 53.0%
関係者個人・教員・保育士・主任 児童委員など	1,296人	383人	29.6%	
総数	1,684件	509件	30.2%	

※ 学校・保育園・幼稚園・認定こども園・スキップ・ジャンプ・病院・警察・
高齢者総合相談センター・介護支援事業所・障害支援事業所・母子生活支援施
設・子ども食堂・保健所・社会福祉協議会・区民ひろば・アシスとしま他

2. 主な調査結果について

(1) 子ども向け調査結果

① 認知度 (135-140 ページ)

回答	小学生		中学生		高校生世代	
	区	国	区	国	区	国
ヤングケアラーについて、聞いたことがあり内容も知っている	35.2%		36.8%	6.3%	60.4%	5.7%
ヤングケアラーについて、聞いたことはあるがよく知らない	21.4%		25.7%	8.8%	13.8%	6.9%
ヤングケアラーについて、聞いたことがない	42.3%		37.1%	84.2%	25.6%	86.8%

② 家族の中にお世話をしている人がいると回答した子どもの数 (48-50 ページ)

回答	小学生		中学生		高校生世代	
	区	国	区	国	区	国
家族の中にお世話をしている人がいる	21.4%	6.5%	4.7%	5.7%	2.8%	4.1%
	4人に 1人	15人に 1人	21人に 1人	17人に 1人	35人に 1人	24人に 1人

③ ヤングケアラーにあてはまると回答した子ども (126-132 ページ)

回答	小学生		中学生		高校生世代	
	区	国	区	国	区	国
自分はヤングケアラーにあてはまる	2.2%		1.5%	1.8%	2.3%	2.3%

④ お世話が必要な人は誰ですか。☆複数回答（51-56 ページ）

回答	小学生		中学生		高校生世代	
	区	国	区	国	区	国
お母さん	54.2%	19.8%	34.1%	23.5%	25.0%	29.6%
お父さん	42.5%	13.2%	12.2%		6.3%	
おばあさん	11.0%	10.3%	14.6%	14.7%	12.5%	22.5%
おじいさん	6.1%	5.5%	7.3%		6.3%	
きょうだい	41.1%	71.0%	39.0%	61.8%	62.5%	44.3%
その他	3.6%	1.9%	2.4%	3.8%	0.0%	5.5%

⑤ お世話の頻度（81-83 ページ）

回答	小学生	中学生	高校生世代
ほぼ毎日	29.7%	31.7%	62.5%

⑥ 1日当たりのお世話の時間（84-86 ページ）

対象	3時間未満	3時間以上 7時間未満	7時間以上	未回答/その他
小学生	44.0%	17.8%	6.5%	31.7%
中学生	29.3%	19.5%	2.4%	48.7%
高校生	25.0%	37.5%	6.3%	31.3%

⑦ お世話を始めた年齢の平均とお世話の内容 ☆複数回答（78-80・66-71 ページ）

対象	平均年齢	お世話の内容
小学生	7.3 歳	①家事 ②きょうだいの世話 ③買い物等外出の付き添い
中学生	10.3 歳	①家事 ②きょうだいの世話 ③見守り
高校生	10.6 歳	①見守り ②家事 ③きょうだいの世話

⑧ お世話をしていることで困っていること ☆複数回答 (93-95 ページ)

回答	小学生	中学生	高校生世代
特にない	60.3%	39.6%	27.3%
体力的、精神的、時間的にきつい	28.2%	23.5%	59.1%

⑨ お世話をしていることで、やりたいけどできていないことがある (87-92 ページ)

回答	小学生	中学生	高校生世代
やりたいけどできていないことがある	15.7%	26.8%	62.5%

⑩ 学校や周りの大人にしてもらいたいこと ☆複数回答 (114-119 ページ)

対象	大人にしてもらいたいこと
小学生	①自由に使える時間 ②自分の状況について話を聞いてほしい ③学習のサポート
中学生	①自由に使える時間 ②学習のサポート ③家庭への経済的な支援
高校生	①家庭への経済的支援 ②自由に使える時間 ③自分が行っているお世話のすべてを変わってくれるサポート

⑪ 相談の経験 (96-98 ページ)

対象	相談したことがある	相談したことがない	未回答
小学生	17.8% (73人)	65.8% (293人)	16.4% (79人)
中学生	19.5% (3人)	73.2% (30人)	7.3% (8人)
高校生	6.3% (3人)	75.0% (12人)	18.8% (1人)

⑫ 誰に相談しているか ☆複数回答の上位5件 (99-104 ページ)

回答	小学生	中学生	高校生世代
家族 ※お母さん、お父さん、おばあさん おじいさん、きょうだい	79.5%	100%	66.7%
友だち	27.4%	66.7%	100%
学校の先生 (※保健室の先生以外)	8.2%	0.0%	0.0%
保健室の先生	1.4%	33.3%	0.0%
スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー	5.5%	33.3%	0.0%

⑬ 子どもたちが希望する相談方法 ☆複数回答 (120-125 ページ)

対象	直接会って	電話	メール	SNS	その他/無回答
小学生	17人 (51.5%)	6人 (18.2%)	4人 (12.1%)	4人 (12.1%)	9人 (27.3%)
中学生	3人 (100%)	2人 (66.7%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	1人 (33.3%)
高校生	1人 (50.0%)	1人 (50.0%)	2人 (100%)	2人 (100%)	0人 (0.0%)

⑭ 「自分がヤングケアラーにあてはまるか」と「学校生活等であてはまることについて」の質問のクロス集計 ☆複数回答 (253-255 ページ)

(単位：%)

学校生活等であてはまること	ヤングケアラーにあてはまるか								
	小学生			中学生			高校生世代		
	あてはまる	あてはまらない	わからない	あてはまる	あてはまらない	わからない	あてはまる	あてはまらない	わからない
健康状態がよくない・あまりよくない	2.2	2.3	3.3	0.0	2.3	9.7	7.7	3.6	10.7
欠席をよくする・たまに欠席する	26.6	19.3	28.7	23.1	21.9	21.5	23.1	20.3	35.7
遅刻や早退をよくする・たまにする	20.6	17.6	24.4	30.8	11.2	17.2	15.4	14.4	10.7
持ち物の忘れ物が多い	26.7	24.5	30.2	46.2	26.0	31.2	38.5	12.6	17.9
提出しなければいけない書類などの提出が遅れることがある	28.9	15.8	22.5	53.8	22.8	24.7	38.5	11.5	10.7
宿題や課題ができていないことが多い	11.1	9.4	12.4	30.8	17.4	21.5	30.8	11.9	21.4

⑮ 「お世話を費やす時間」と「学校生活等であてはまることについて」の質問の
クロス集計 ☆複数回答 (195-199 ページ)

(単位：%)

学校生活等であてはまること	お世話を費やす時間								
	小学生			中学生			高校生世代		
	3時間未満	3～7時間未満	7時間以上	3時間未満	3～7時間未満	7時間以上	3時間未満	3～7時間未満	7時間以上
健康状態がよくない・あまりよくない	2.6	1.3	3.7	0.0	12.5	100	0.0	0.0	0.0
欠席をよくする・たまに欠席する	22.0	27.9	27.9	14.2	37.5	100	0.0	16.7	100
遅刻や早退をよくする・たまにする	18.3	21.5	22.2	7.1	25.0	100	0.0	16.7	100
持ち物の忘れ物が多い	27.2	35.4	14.8	21.4	50.0	0.0	25.0	33.3	0.0
提出しなければいけない書類などの提出が遅れることがある	15.2	26.6	11.1	35.7	25.0	100	25.0	33.0	0.0
宿題や課題ができていないことが多い	11.0	7.6	3.7	21.4	25.0	100	25.0	33.3	0.0

⑯ 「お世話を費やす時間」×「お世話の内容」のクロス集計

☆複数回答 (210-212 ページ)

(単位：%)

お世話の内容	お世話を費やす時間								
	小学生			中学生			高校生世代		
	3時間未満	3～7時間未満	7時間以上	3時間未満	3～7時間未満	7時間以上	3時間未満	3～7時間未満	7時間以上
家事（食事の準備や掃除・洗濯）	44.0	44.3	44.4	35.7	50.0	100	50.0	50.0	0.0
きょうだいのお世話や保育所等への送迎など	20.4	44.3	51.9	28.6	37.5	100	25.0	66.7	100
外出の付き添い（買い物・散歩など）	29.3	29.1	37.0	7.1	0.0	100	0.0	50.0	0.0
感情面のサポート（愚痴を聞く・話し相手になるなど）	9.4	5.1	25.9	7.1	12.5	0.0	25.0	16.7	0.0
見守り	24.1	32.9	37.0	28.6	37.5	100	75.0	66.7	100
通訳（日本語や手話など）	0.5	1.3	7.4	7.1	0.0	0.0	0.0	16.7	100

⑰ 「お世話を必要としている家族」×「お世話の内容」のクロス集計

☆複数回答（229-231 ページ）

（単位：％）

お世話の内容	お世話に費やす時間								
	小学生			中学生			高校生世代		
	父母	祖父母	きょうだい	父母	祖父母	きょうだい	父母	祖父母	きょうだい
家事（食事の準備や掃除・洗濯）	44.9	40.0	35.5	42.1	55.6	25.0	100	66.7	40.0
きょうだいのお世話や保育所等への送迎など	19.1	21.3	35.0	26.3	11.1	56.3	0.0	0.0	70.0
身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）	7.9	13.3	10.4	21.1	44.4	12.5	100	100	10.0
外出の付き添い（買い物・散歩など）	27.7	32.0	23.5	10.5	22.2	12.5	60.0	33.3	40.0
通院の付き添い	3.7	2.7	1.6	0.0	0.0	0.0	60.0	33.3	20.0
感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	6.7	9.3	11.5	0.0	11.1	12.5	40.0	66.7	10.0
見守り	14.0	26.7	36.1	42.1	22.2	43.8	20.0	66.7	80.0
通訳（日本語や手話など）	0.7	9.3	0.5	0.0	11.1	0.0	0.0	66.7	10.0
薬の管理	1.2	5.3	0.5	0.0	11.1	25.0	40.0	66.7	40.0

⑱ 自由意見から (285・290・292 ページ)

○ アンケート調査の実施について

- ・「このアンケート調査でヤングケアラーについて初めて知った」等の意見が多くあった
- ・「繰り返し行ってほしい」という意見も多くあった

○ ヤングケアラーのイメージへの配慮について

- ・勝手に可哀想だとか思われたり変な目で見られたりしたくない
- ・SNS やマスコミなどでヤングケアラーの家族などを悪く報道しないで欲しい

○ ヤングケアラーに必要なと思う支援について

- ・相談しやすい環境
- ・周囲の大人のサポート
- ・具体的な支援＝金銭面でのサポートについてなど

(2) 関係機関・関係者向け調査結果

① 認知度 (322 ページ)

認知度	区		国			
	関係機関	関係者	小学校	中学校	全日制高校	要対協自治体
(1) ヤングケアラーについて、言葉を知っており、機関として意識して対応している	40.5%	35.0%	41.4%	20.2%	9.6%	76.5%
① ヤングケアラーと思われる子どもの実態を把握している	35.3%	47.0%	44.4%	61.2%	45.8%	30.6%
(2) ヤングケアラーについて、言葉は知っているが、特別な対応をしていない	55.6%	47.5%	51.0%	37.9%	53.0%	
(3) ヤングケアラーについて、言葉は聞いたことがあるが、具体的には知らない	2.4%	13.3%	6.1%	15.1%	15.7%	
(4) ヤングケアラーについて、言葉知らない	0.8%	2.6%	0.4%	25.7%	21.3%	6.6%

② ヤングケアラーの定義を見たうえで、自身の機関に「ヤングケアラーと思われる子どもがいる」(325 ページ)

回答	関係機関	関係者個人	全体合計
ヤングケアラーと思われる子どもがいる	19.0%	25.6%	24.0%

③ ヤングケアラーと思われる子どもの状況 ☆複数回答の上位5件（327-328 ページ）

回答	関係機関	関係者個人	全体合計
障がいや病気のある家族に代わり家事をしている	25.0%	39.8%	36.9%
家族の代わりに幼いきょうだいのお世話をしている	37.5%	61.2%	56.6%
家族の代わりに障がいや病気のあるきょうだいの世話をしている	20.8%	18.4%	18.9%
家族の通訳をしている	12.5%	30.6%	27.0%
アルコール・薬物・ギャンブルなどの問題のある家族に対応している	20.8%	26.5%	25.4%

④ ヤングケアラーの把握の方法（324 ページ）

回答	関係機関	関係者個人	全体合計
特定のツールなどではなく、できるだけヤングケアラーの視点を持って個別に検討・対応している	45.2%	51.7%	50.1%
アセスメントシートやチェックリストなどのツールを用いている	33.3%	37.6%	36.5%
その他 (関係機関との連携など)	32.5%	35.2%	34.6%

⑤ 学校・施設で共有しているケースの傾向 ☆複数回答（312 ページ）

回答	関係機関	関係者個人	全体合計
学校や行事、イベントを休みがちである	33.3%	37.6%	36.5%
精神的な不安定さがある	45.2%	51.7%	50.1%
宿題や持ち物の忘れ物が多い	32.5%	35.2%	34.6%
必要な書類などの提出遅れや提出忘れが多い	27.8%	35.2%	33.4%

⑥ 自分の所属以外の外部の支援につないだケースの有無 (329 ページ)

回答	関係機関	関係者個人	全体合計
要保護児童対策地域協議会に通告した	1.6%	3.7%	3.1%
要保護児童対策地域協議会につなぐほどではないが外部の支援につないだ	7.1%	8.4%	8.1%
外部につないでいない (校内・所内で対応している)	9.5%	12.0%	11.4%

⑦ 「ヤングケアラー」がいるかわからない理由 ☆複数回答の上位3件 (342 ページ)

回答	関係機関	関係者個人	全体合計
家族内で表に出にくく、実態の把握が難しい	83.9%	73.4%	75.3%
ヤングケアラーである子ども自身やその家族が「ヤングケアラー」という問題を認識していない	38.7%	26.6%	27.7%
ヤングケアラーの概念や支援対象としての認識が不足している	16.1%	13.3%	13.8%

⑧ 自由意見 (361 ページ)

回答	全体合計
実態・状況把握の必要性等について	15.2%
当事者・関係者の知識、理解の向上の必要性について	21.5%
内部・外部情報の共有・連携の重要性について	12.0%
周囲の気づきや配慮の必要性について	17.7%
社会制度・環境・サポート体制の整備などについて	28.5%
その他	5.1%

自由意見（原文 抜粋）

- ・「職員（大人）がヤングケアラーについて知ること」次いで「子どもが職員（大人）に相談しやすい環境をつくること」「子ども自身がヤングケアラーについて知ること」
- ・家族と本人が自覚してないこと。当たり前的事と思っていること。よって、表に出にくい。まず「ヤングケアラー」という言葉を周知する事が大事。支援はそれからだと思います。
- ・ヤングケアラーはなかなか表に出てこない。辛くても苦しくても当たり前だと思ってしまうたり、相談することができなかつたり、どこに相談したらよいかわからなかつたりしているのではないかと思う。
- ・昔は子どもが親や家族のために手伝えることが当たり前とされていた。現在はその子の権利が主張されるので、やらされることは許されないと思うが、ヤングケアラーの基準や判断が難しいと思う。はっきりとわかる場合もあると思うが、子どもは虐待を受けていても親をかばう傾向があるので、ケースにより何をやってあげられるのかを考えての対応はかなり難しいと思う。
- ・ヤングケアラーに該当する児童は、行動面の制限がかかるだけでなく、精神面もかなりの負担がかかる。たくさんの経験を得て成長していく中で不利な環境であるため、早期的に発見しケアが必要だと考える。
- ・子どもたちの中にヤングケアラーが悪いイメージだけが植え付けられてしまうのではなく、ケアをしているという自覚があってもなくてもあっても、そのことを自然に話せる家族以外の大人の存在が近くにあるような豊島区を作れたらいいなと思います。
- ・ケアラーが集まりゆっくり話ができる場所、環境を設ける(場合によってはオンラインでの参加など)。その際、ケアラーが参加しやすいように配慮していく必要があると考えた。
- ・複雑な要素が絡み合っていると思う。福祉だけじゃない、教育だけじゃない、心の問題だけじゃない。 いっそ、関係する部門の専門家が一堂に会して情報交換、解決に向けて歩き出すことをしてはいかがか？